〈CUE〉利用教育委員会通信　第 86 号（25 巻 1 号）　　2016.1.28 発行

■■■ ■　■ ■■■　利　用　教　育　委　員　会　通　信

■　　■　■ ■■　日本図書館協会図書館利用教育委員会

■■■ ■■■ ■■■　JLA The Committee of User Education

・「〈CUE〉利用教育委員会通信」は日本図書館協会図書館利用教育委員会がニュースをお伝えするメールマガジンです。

・〈CUE〉は Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。

・本誌は等幅フォントでご覧ください。

・利用教育関連の情報をお寄せください。本誌へのご意見やご要望もお待ちしています。cue@jla.or.jp

□ 目次

(1) 発行再開のご挨拶

(2) 第 20 回図書館利用教育実践セミナーのご案内

(3) 第 19 回図書館利用教育実践セミナーの開催報告

(4) 第 100 回全国図書館大会第 23 分科会（利用教育）の開催報告

(5) 第 101 回全国図書館大会第 2 分科会（大学図書館／利用教育）の開催報告

(6) 編集後記

(7) 図書館利用教育委員会委員

---

(1) 発行再開のご挨拶

次のステージに向けて

委員長　野末俊比古（青山学院大学）

本年もよろしくお願いいたします。当委員会の活動にご理解，ご協力をいただき，ありがとうございます。

当委員会は，図書館における利用教育の普及・啓発を目的として，25 年以上にわたり，「ガイドライン」や「ハンドブック」の作成，教材開発への協力，セミナーの企画・運営など，さまざまな活動を展開してきました。近年，図書館界において，情報リテラシー教育に果たす役割の重要性は広

く認識されるようになり，各図書館における実践も定着し，研修の機会なども増えています。

かかる状況を踏まえ，委員会として果たすべき役割を再検討し，方針・体制の再構築を進めています。例えば，発表から 15 年以上が経過した「ガイドライン」の見直しに取りかかっています。数年前から，図書館大会における分科会の企画・運営は，毎年の担当を止め，必要時のみとしていましたが，これに加えて，京都で毎年，開催し，好評を博していたセミナーについてもいったんお休みをいただき，ガイドラインの見直しに注力する方向を取らせていただいています。

セミナーのお休みについては，ご期待くださっている皆さまには，あらためてお詫びいたします。じつは，昨年度，諸事情が重なり，委員会活動を計画どおりに進めるのが難しい状況になったことも理由のひとつです。しかしながら，委員会 OB/OG はもとより，大変多くの皆さまのご支援により，昨年度の全国図書館大会分科会は開催することができました。今年度の分科会は，大学図書館部会と合同開催というかたちで進めることができました。あらためて関係の皆さまには，お詫びとお礼を申しあげます。

委員会では，今年度を再出発の時期ととらえ，委員の交代を含めて、今後の展開に向けて下地を固めてきました。次年度は，ガイドラインの見直し（具体的には，ガイドラインに代わる枠組みづくりを検討しています）に向けて，図書館界全体としての機運を高めるため，着実に活動を進めていきたいと思います。まずは，今年度中にセミナーを開催し，次年度からの本格的検討の足がかりとしたいと思います。本号にて，セミナーの開催案内（第一報）をお届けします。ぜひご予定くださいませ。

図書館を取り巻く環境が変わっていくなかで，情報リテラシー（教育）への貢献は，中核となる使命としてますます重要度を増していると思います。図書館は，情報リテラシー（教育），ひいては現在および今後の情報社会における私たちの生活に不可欠なものであるという理念を確固たるものにできるよう，図書館界全体としていっそうの取り組みを進めていく必要があるのではないでしょうか。委員会としても，しかるべき役割を果たしていきたいと思っています。

委員会（委員）のみで活動するのではなく，なるべくオープンなかたちで，図書館界全体の経験と知恵を集約できるような仕組みづくりを工夫していきたいと思っています。皆さまにもご支援をちょうだいする機会が増える

かと思います。委員会に関するご意見は、いつでも歓迎しております。どうぞよろしくお願いいたします。

---

(2) 第 20 回図書館利用教育実践セミナーのご案内

標記セミナーを次のとおり実施します。ふるってご参加ください。詳細は委員会ホームページ（www.jla.or.jp/cue/）にてご確認ください（随時更新）。

・日時：2016 年 3 月 13 日（日）13:00～

・会場：日本図書館協会 2 階研修室

・テーマ：館種を越えた情報リテラシー教育に向けて（仮）

・企画・運営：図書館利用教育委員会

---

(3) 第 19 回図書館利用教育実践セミナーの開催報告

情報リテラシー教育と評価に関するセミナー

―2 名の大学教員による講義・ワークショップを実施―

春田和男（東京家政大学）

当委員会では，2014 年 3 月 2 日，キャンパスプラザ京都にて，第 19 回図書館利用教育実践セミナーを開催した。今回のテーマは「情報リテラシー教育と評価」で，有吉末充氏（京都学園大学）と上岡真紀子氏（帝京大学）による講義・ワークショップが行われた。

有吉氏は「主体的評価の可能性：情報の評価について考える」と題し，1)情報の評価と批判的思考，2)西欧との比較で日本社会において情報を評価することが難しい理由，3)司書養成教育等で主体性の確立や批判的思考の尊重を取り入れた，情報評価の教育の必要性について講義を行った。

上岡氏は「利用教育の成果をどう評価するか：インストラクショナルデザインの視点から」と題し，利用教育の評価の現状を確認・共有し，改善するための方法として，インストラクショナルデザインの手法を紹介したのち，ワークショップを行った。

今回のセミナーには，各館種の図書館職員，図書館学教員，関係業者など 63 名が参加した。質疑応答が活発に行われたほか，ワークショップにも熱

心に取り組んでいた。

---

(4) 第 100 回全国図書館大会第 23 分科会（利用教育）の開催報告

図書館利用教育の実践力

―委員会創設 25 周年，次に向けての展望を拓く―

天野由貴（椙山女学園大学図書館）

委員会創設 25 周年の節目に当たる今大会（2014 年 11 月 1 日開催）で，図書館利用教育委員会のセッションは，次の 25 年に向けての展望を拓く機会となった。当日の会場（明治大学駿河台キャンパス）は，空席がない満員の状態で始まり，参加者の期待度の高さを示していた。

基調講演およびコーディネータを務めた仁上幸治氏（図書館サービス計画研究所代表）により，この 25 年で図書館利用教育はどこまで進化したかという現状分析から次の 25 年に向けての問題提起があった。この 25 年間における進化は，5 名の講師の講演および実践報告により明らかにされた。内容については，和田佳代子氏（昭和大学）による医学図書館における図書

館利用教育の最先端動向，鈴木恵津子氏（東京家政大学図書館）による大学図書館における情報リテラシー教育支援の実践，長澤多代氏（三重大学附属図書館研究開発室）による大学教員が行う情報リテラシー教育，高橋みち子氏（千葉県八街市立図書館）による公共図書館での児童に向けての情報リテラシー教育，日向良和氏（都留文科大学情報センター）による司書教諭養成講座における実践など，さまざまな館種の図書館における情報リテラシー教育の実践が報告された。

この 25 年間での進化を客観的に分析するとともに，これからの 25 年間でどのように発展，深化を図るのかについて議論することで，フロアー参加者とともに情報リテラシー教育の将来のデザインを会場全体で共有した。今までの歴史的背景と発展を知ったうえで，情報リテラシー教育は，今後どのように体系的になるのか。大学図書館におけるガイドラインは示されてきたものの，他の館種におけるガイドラインへの展開や，ひとりの利用者が生涯学習における自立した学習者になるためにも，どのように館種を越えて情報リテラシー教育を行うのか。パネルディスカッションにおいて，さまざまな館種の参加者から積極的な発言があり，今後の 25 年に向けての方向性を確認することができた分科会となった。これからの利用教育の新たな一歩が刻まれた貴重な機会であった。

---

(5) 第 101 回全国図書館大会第 2 分科会（大学図書館／利用教育）の開催報告

ラーニング・コモンズと情報リテラシーの関係について考える分科会

ー講演 3 件，事例報告 2 件のほか，トークセッションを実施ー

春田和男（東京家政大学）

当委員会では，2015 年 10 月 16 日，国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第 101 回全国図書館大会において，大学図書館部会と合同で分科会を開催した。分科会のテーマは「学習支援の次なる Stepーラーニング・コモンズと情報リテラシーのおいしい関係ー」である。

国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会が作成した『高等教育のための情報リテラシー基準　2015 年版』と「ラーニング・コモンズの在り方に関する提言：実践事例普遍化小委員会報告」を踏まえて，1)情報リテラシー基準とはどういう意味を持つものなのか，2)ラーニング・コモンズと呼ばれる図書館における学習スペースはどのように活用されるべきなの

か，3)学習（学修）支援の実質化に向けた次のステップとして，図書館が「学び」にどう関わるのかについて考えた。ここで，情報リテラシーとは「課題を認識し，その解決のために必要な情報を探索し，入手し，得られた情報を分析・評価，整理・管理し，批判的に検討し，自らの知識を再構造化し，発信する」能力のことである。

当分科会では，岡部幸佑氏（東京大学附属図書館）による概要説明ののち，講演，事例報告，トークセッションが行われた。

講演は次の 3 件である。1 件目は，野末俊比古氏（青山学院大学）による「学修支援と情報リテラシーー新しい学びの基盤づくりに向けてー」である。まず，学修支援としての図書館サービスについて，図書館資源を，情報資源，空間（物的）資源，人的資源の 3 つに区分して，主たる論点を挙げた。次に，学修支援の柱である情報リテラシー教育の目標・内容を一覧・俯瞰できる「体系表」を作成し，その表に基づいて，入学時から卒業時までのどの段階でどの事項をどの機会で指導・修得するのかというプログラムを策定する必要があると指摘した。その際，教育学（教職）の基礎的な知識が有用であると述べている。最後に，アクティブ・ラーニング（主体的な学び）について 2 つ言及した。1 つは授業（時間）にアクティブ・ラ

ーニングが取り入れられることによって図書館の役割が重要になること，もう１つは図書館が実施する情報リテラシー教育においてアクティブ・ラーニングの導入が有効であることである。

2 件目は，小山憲司氏（日本大学）による「ラーニング・コモンズ 2.0ー実質化に向けた次のステップー」である。教育・学習支援は大学全体の活動であり，図書館単独では達成し得ないと指摘した上で，米国の大学図書館の事例として，シティカレッジオブサンフランシスコ（City College of San Francisco）のチュートリアルセンター（Tutorial Center）と，ワシントン大学（University of Washington）のリサーチコモンズ（Research Commons）を紹介した。最後に，図書館側がサービスを提供し，利用者がそれを利用するだけでなく，ラーニング・コモンズという場を活用して，利用者自身がさまざまなサービスを提供し，その果実を皆が享受することもできると指摘した。

3 件目は，内島秀樹氏（神戸大学附属図書館）による「『ラーニング・コモンズの在り方に関する提言：実践事例普遍化小委員会報告』の読み方」である。この報告は，ラーニング・コモンズという新たな図書館事業の最終目的地を意識するために，共有できる理念と各大学で導入する際の，融

通性のある概括的な枠組みを示したものであると述べている。報告は 6 章からなる。第 1 章「はじめに」，第 2 章「北米におけるラーニング・コモンズ導入事情」，第 3 章「国内のラーニング・コモンズ導入状況とその背景」，第 4 章「ラーニング・コモンズの在り方について」，第 5 章「ラーニング・コモンズの在り方」，第 6 章「チェックリストによる自己点検適用事例」である。第 4 章と第 5 章を読むことによって，ラーニング・コモンズの理念を理解・共有し，第 6 章を参照し，チェックリストを埋めることで，ラーニング・コモンズの現状と最終目的（理念）との隔たりを自己点検することができると指摘した。

事例報告では，餌取直子氏（お茶ノ水女子大学附属図書館）と村尾真由子氏（筑波大学附属図書館）から，それぞれの図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』の活用事例が報告された。最後に，岡部氏，講演者，事例報告者が「ラーニング・コモンズと情報リテラシーのおいしい関係」というテーマで，適宜，会場からの質疑応答も行いながら，トークセッションを実施した。

---

(6) 編集後記

第 86 号をお届けします。今号では『利用教育委員会通信』の発行再開の挨拶のほか，当委員会が主催または共催した 2014 年以降のセミナー・分科会の報告記事を掲載しました。

前号から発行の間隔が大幅に空いてしまいまして，誠に申し訳ありませんでした。長年『利用教育委員会通信』を配信するために利用していたサービスが終了し，その後，新たな配信サービスに移行するのに時間がかかってしまったためです。深くお詫び申し上げます。

このたび，新たなサービスへの移行が完了しましたので，今後は一定の間隔で配信することができると考えております。今後とも『利用教育委員会通信』をどうぞよろしくお願いいたします。　　（春田）

---

(7) 図書館利用教育委員会委員

（委員長）

野末俊比古：青山学院大学教育人間科学部

（委員）

天野　由貴：椙山女学園大学図書館

石川　敬史：十文字学園女子大学

春田　和男：東京家政大学人文学部

福田　博同：跡見学園女子大学文学部

（事務局）

久保木いづみ：日本図書館協会事務局

〈CUE〉利用教育委員会通信　第 86 号（25 巻 1 号）　　2016.1.28 発行

・バックナンバー：http://www.jla.or.jp/cue/

・配信登録・変更・解除・お問い合わせ：cue@jla.or.jp

※本誌は Gmail を使って発行していますが，日本図書館協会および当委員会，ならびに本誌の内容と Google とは関係がありません。